

## 特集：蝶理のサステナビリティ事業

自然由来の天然色素で染めたエシカル製品を届けたい

# ナチュラルダイ®

Natural Dye

サステナブルな社会の実現にも繋がる、  
蝶理のナチュラルダイ®の取り組みをご紹介します。



繊維第二事業部  
アパレル部 部長  
前川 達哉

## ナチュラルダイ®とは

化学染料を使用する一般的な染色に対し、草木染めはその名の通り、草木などの天然色素を染料として染め上げます。草木染め自体は古来より存在しますが、汗や光に弱く、洗濯すると色落ちするという課題がありました。ナチュラルダイ®は、これらの課題を改良した環境配慮型アパレル製品です。蝶理は、草木染めを専門とする(株)シオンテックとの協業により、このナチュラルダイ®に15年以上取り組んできました。

ナチュラルダイ®は、化学染色と比べて環境負荷が少ないことに加え、草花だけでなく、コーヒーの搾りかすなどの食品残渣を染料として染色することも可能であるため、環境に優しいアパレル製品として、昨今注目を集めています。







# 01

## ナチュラルダイ®の 起源と特徴

ナチュラルダイ®の誕生のきっかけは、15年以上前に遡ります。当時はサステナビリティという言葉すら定着していなかった時代ですが、環境への配慮やエコという意味合いで、時代に先駆けてこの草木染めのプロジェクトがスタートしました。

草木染めは、化学染色と比べて太陽の光に弱く、色褪せしやすかったり、洗濯で色落ちしやすいため、量産しにくいという課題がありました。しかし、ナチュラルダイ®は、草木などの天然色素を用いながらも、一定の堅牢度を保つことに成功しました。本来、天然色素は、繊維への付着が難しいですが、独自開発された特殊な糊を使用することで、天然色素の安定定着を可能としたのです。この独自開発された染色法により、天然繊維だけでなく、化学繊維にも天然色素を用いた染色を行うことができます。

化学染料は粒子が細かいため、生地

にムラなく平均的に付着しますが、草木からとれる天然染料の粒子は、化学染料の粒子よりも大きい特徴があります。そのため、ナチュラルダイ®の生地は光を乱反射し、平坦な生地でも、色に深みを生み出すことが可能です。つまり、化学染料では表現できない色の表現ができるのです。

また、表現できる色数の多さも、ナチュラルダイ®の特徴の1つです。協業する研究所内には、約2,300種類の染めの原料がありますが、その植物1つ1つの中に、約200個の色素が混じっています。一見して緑に見える色でも、実は複雑に色素が混ざり合って、緑に見えています。そのため、暖かい色合いや、複雑な色の表現がナチュラルダイ®には可能です。また、世の中にある様々な物質、例えば、鉱石などの色素も染料に用いることも可能です。

# 02

## 環境や人への優しさ

化学染料を用いた染色法は、染色の際に発生する廃液中に多くの人工物が含まれており、環境汚染が問題視されています。一方で、ナチュラルダイ®は、色素となる植物の成分が繊維にしっかり吸着するため、染色後の廃液に、ほとんど成分が残りません。そのため、廃液による水質汚染や土壌汚染が少なく済みます。さらに、植物には様々な薬用効果があるため、その植物を染料として用いるナチュラルダイ®の製品にも、同様の効果があると言われています。例えば、バラを染料として用いた製品には、鎮静効果、安眠効果、美肌効果が期待されます。

加えて、野菜の廃材など、所謂フードロスの食材を用いた染色も可能で、現在、地産地消という観点からも、注目を集めています。その土地の名産である日本酒の酒粕や、その土地で生産されたワインの搾りかすなど、廃棄されてきたものを使用して染色し、服に生まれ変わるという、循環型の地産地消です。

また、コロナ禍で様々なイベントが中止となったことにより、飾られる予定であった花の廃棄が昨今問題となっていますが、枯れてしまった花を染料にする取り組みは、ナチュラルダイ®で昔から行っていました。服を染めるために何かを新しく購入したり、プランテーション

したりしないため、ナチュラルダイ®は環境負荷の低減にも寄与しています。



# 03

## ナチュラルダイ®の 採用の拡大

ナチュラルダイ®自体の歴史は15年以上となりますが、この3、4年でご依頼いただく案件が増えている実感があります。どの業界でも、持続可能性や地球環境への配慮が重視される時代となり、繊維業界においてもそれは同様です。

株式会社丸井グループでも、人や地球環境に配慮したエシカルファッ

# 04

## 今後に向けて

ナチュラルダイ®は、国内だけでなく、サステナブルへの意識が高い欧米でも注目されている商材です。新型コロナウイルス感染症の拡大以前に、イタリアで開催された展示会に3回程、ナチュラルダイ®を出展しました。セーターの産地である新潟県の企業と協業したり、和紙の繊維でナチュラルダイ®を展開したりと、日本の高い技術力に加え、日本らしさといった独自性が、海外でも非常に高く評価をいただいています。

また、蝶理では、白度の高いウズベキスタンの綿糸MILLENNIUM ORGANIC®や、MEDITERRANEAN GIZA™などの天然繊維を取り扱っているため、これらとナチュラルダイ®との掛け合わせも、現在行っています。このような天然繊維は、色の深みが出やすいことに加え、環境に



ションとして、ナチュラルダイ®を採用していただいています。繊維業界の生産サイクルは、各シーズンの商品を半年がかりで構成していく時間軸であり、ナチュラルダイ®についても、約半年で商品の企画・構成を行っています。

ナチュラルダイ®の採用数は増加傾向にありますが、染工場や加工場は、国内のものに限定して、商品を生産しています。なぜなら、世界でも評価される日本の技術力を活かしたいとい

う想いと、日本の産業の手助けをしたいという想いを、ナチュラルダイ®が生まれた当初から大切にしているからです。このように、限られたマンパワーで生産を行っているため、昨今の需要の拡大に対し、生産までのリードタイムが多少伸びている現状があります。しかし逆に言えば、それだけナチュラルダイ®のニーズが高まり、商品に対して評価していただいている結果だと認識しています。

主流化しているように、これからは、量よりも質が重視される時代だと感じています。そのため、コンセプトを大切にし、かつ、差別化された商品であるナチュラルダイ®は今後も必要とされるでしょうし、蝶理としてその取り扱いを行っていることは非常に意義深いことです。これからのナチュラルダイ®に、ご期待いただければと思います。

優しいというナチュラルダイ®のコンセプトとも相性が良いです。このように、ナチュラルダイ®のコンセプトに適した商材との掛け合わせを、今後も展開できればと思います。

一方で、ナチュラルダイ®自体が、もともと拡販に適したスキームでなく、限られた日本内の加工場、限られた人材の中で取り組んでいる事業です。そのため、利益のために事業を拡大していくというよりは、環境に優しいものを作りたい、日本の産業の手助けをしたい、といった理念に共感していただけるお客様と、今後、取り組みを推進していければと考えています。

スーツにしても、パターンオーダーやカスタムオーダーといった、1人1人に合ったサイズで物を作る流れが

